

理学研究科物質科学専攻 修士課程

理念

自然の本質を論理的・実証的に解析・考察でき、グローバルで高度な知識を有して、高度の専門性を要する職業に対して必要な能力に優れたスペシャリストの育成を目指す。

教育方針

コンピュータ化された未来の可能性を見通し、物質科学の諸分野において研究・教育を担う人材の育成、特に、産業界に向けた有為な高度専門職業人の育成を目的としているが、より高い目標は建学の精神「学問による人間形成」にある。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

物質科学専攻では、研究に対する熱意を持ち、物質科学専攻の教育方針に沿って積極的に努力する人を受入れる。また、高度な知識をもった理科教員や上級の資格である専修免許の取得を目指す学生を求めている。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

物質科学専攻では、高度に専門的なコンピュータスキルをもつ物質科学技術者を目指す特色あるカリキュラムポリシーを設定している。

1. 全院生がコンピュータに精通することを前提とし、情報科学部門の6科目のうち4科目を必修にしている。これにより、進路の可能性を拡げ、有為な高度専門職業人として活躍できる道を創る。
2. 修士論文研究と特論科目では、それぞれが専門とする分野においてスペシャリストとして高度な知識と技能の修得を目指す。
3. 技術者としての視野をひろげる、サイエンスビジネスセミナーが必修科目に置かれている。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

物質科学専攻では、提出した修士論文と最終試験に合格し、物質科学専攻のカリキュラムにおいて必要単位を修得した者は修士（理学）の学位が授与される。

修士論文審査は研究テーマの妥当性、意義、方法、展開、結果、論文の記載等に関して定められた基準に基づいて行なわれ、可否を決定する。

最終試験は論文発表と質疑応答により可否を決定する。